第２回山城地域振興計画推進懇話会　主な意見（抜粋）

〇近年は新型コロナウイルス感染症等の様々な要因により変化が激しく、2、3 年先の予想も難しい時代であるが、山城地域振興計画のような中長期的スパンの計画を策定することは、地域にとって意義のあることである。

〇広域連携プロジェクトの京都府南部イノベーション、グレーターけいはんなについては、関西文化学術研究都市のイノベーションをうまく活用するために、地元の自治体、関係団体、学研地域の研究拠点等とうまく連携をしてほしい。

〇山城地域の今後の発展として、相楽東部地域の可能性にも注目をいただきたい。先日、西脇知事の行き活きトークが和束の地で開催されたと聞き、知事が直接府民の意見を聞くというのは重要だと思うが、行き活きトークの内容について、この会議の中で報告をしていただけることがあれば報告をお願いしたい。

〇中間案について、全体としては非常にバランスよく書かれている。
産業分野でいえば、山城全体の中での「域内経済循環」という要素も重要である。
京都府の山城地域振興計画は広域的に大きな方向性を記載しているが、個別自治体の産業ビジョンや産業振興の取組も確認し、それらと整合のとれた計画としていただきたい。

〇文化を生かした地域づくりの取組として、地域の伝統文化行事の継続ということが記載されていることは評価できる。

〇コロナ禍において、地域行事は 2 年間の中止により担い手が少なくなっており、さらに 1、2 年続けば消える地域行事がたくさんあるのが現状である。地域コミュニティは、地域行事によって存続している一面があり、地域行事の消失が地域コミュニティの希薄化につながっているという一面があるため、地域行事が地域コミュニティの継承にとって、非常に重要な位置付けを明確に計画に盛り込むべきである。

〇文化を生かした地域づくりについて、「新しい文化の創造」という要素も盛り込むべきである。伝統文化のみではなく、アートとまちづくりを掛け合わせるような、地域での新たな文化が人のつながりを生むこともあり、そのような観点も必要である。

〇コロナ禍においてのＤＸとしては、働き方や働く場所の変化、働き方改革が大きな要素であるが、そのことが計画上で前面に出ていない。山城地域においては、相楽東部３町村でこそ、最先端のデジタルインフラが整備されることで、ＤＸによる新たな働き方を求める人の流入が期待できるため、働き方改革としてのデジタルインフラ整備という要素を盛り込むべきである。

〇全体的に、女性が大事にされているように感じられるものにするべきである。山城地域のような地方部から女性の流出が進んでいる中で、子育て支援のみでなく、女性のライフスタイルに応じた働き方の支援のような、女性が温もりを感じられる施策を盛り込むべきであるとともに、安心して子どもを産むことができる環境があるということも盛り込むべきである。

〇若い女性が流出する地域や、多くの流入があるが子育て環境が整っておらず子どもを産みにくい地域など、子育て環境についても地域差があり、そういった地域の実情に応じたきめ細かな対応が重要である。

〇脱炭素社会について、プラスチックごみ等の問題に対して個人でできることの記載がないため、個人に対する意識づけのような施策も盛り込むべきである。

〇女性に関することが子育て支援のみに特化されて記載されているのでは不十分に感じる。子育て中の女性の中にも子育てをしながら起業する方も多く、そのような女性の活躍についても盛り込んでいくべきである。

〇新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、災害時の療養者の避難については不安に思う方も多いため、太陽が丘のような広い駐車場や大規模商業施設の駐車場、若者の間で流行するアウトドアのテント等、幅広い療養・避難のあり方が今後必要である。

〇市町村との連携が重要である。地域経営における大きな方針が本計画となるが、それにもとづいた地域経営の担い手は現場の市町村や地域住民であるため、そういった人々が当事者意識を持てるような人材育成や研修会のような取組が重要である。

〇荒茶生産量についてはコロナ禍以前の水準近くまで回復しつつあるが、そういった指標は霜害のような一時的な要因で崩れるものでもあり、担い手の育成や需要の創造、生産性の向上、気象変動への対応など、長期のスパンでの指標・評価も必要である。

〇今の多くの若者はマッチングアプリを使ってパートナー探しをしており、ＤＸという観点から、あらゆる施策がどうすればデジタルな感性とマッチングしていくのかという考え方も重要である。これからの時代の婚活として、そういった新しいものを取り入れるのも一つの案である。